

すっかり秋らしくなりましたね。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。高冷地の阿蘇では、朝晩めっきり冷え込むようになってきました。11月になれば紅葉の季節。外輪山の山々が色づき、晩秋へと季節がうつろいます。温泉につかるのが楽しみな季節でもあります。稲刈りシーズンも終盤で、今月は稲刈り以外の話題もたくさん。実りの秋は充実した毎日です。



我が家の稲刈りは毎年9月にスタートするのが恒例。今年も精米日(18日)に間に合うよう、まずは9月に必要な分だけを刈り取りました。そして精米日の後、順々に刈り取っていきます。ご近所さんたちから「うちの分も刈り取ってほしい」というリクエストを受けるので、耕太は我が家の分が終わっても毎日稲刈り作業。あまりにハードだと、機械がトラブルを起こすのが常です。いちいちメーカーに修理を頼んでいては作業が進まず、費用もかかるので、たいていのトラブルは耕太と叔父が自分たちで解決してしまいます。そんな大人

を見ている子供たちも、おもちゃや道具が壊れたときはまずは自分たちで直そうとします。その姿勢はとても大切なように感じています。

上の双子は今年から小学生なので、平日の日中は家にいません。週末になって3人そろるとほぼ確実にこういうことになってしまいます。あまりに楽しそうなので、止める気も怒る気もませんが、その後がかなり大変です(笑)。

牧草や稲ワラは大切な牛の餌。霜が降りる前に、畑に牧草の種を蒔き、稲刈りが終わると、田んぼではワラ集めが始まります。それが終わるとようやく少し時間にゆとりができるようになる「農閑期」の到来です。

お次は農作業以外のできごとです。私(えり)の東京行きが続きました。1回目は研修。9年前に立ち上げたNPOの事業が環境省に採択され、南阿蘇で再生可能なエネルギーを導入するための協議会を設立することになりました。今年の1月に視察団を引率してドイツの「エネルギー自給集落」を見てきたのですが、それをぜひ南阿蘇村でも具体化したいと思って手を上げた事業。2、3年かけて村内の様々な立場の方々と、実現化に向けた検討を重ねていきます。この事業で、私はコーディネーターという役割を与えられているのですが、何をしていかなければいけないか、という研修が東京で2日間あったのです。全国で8地域が選ばれており、みな同様に高い志とみなぎるエ



エネルギーを持っていることにとっても刺激を受けました。それぞれの取り組みがうまくいきますように！



そして先週末。今度は東京・根津で開催されている我が家の写真展を見に行ってきました。稲刈りが終わっていない耕太は残念ながらお留守番。根津というところは下町で、とても雰囲気がいじり。旅気分が盛り上がり、胸をときめかせながらギャラリーにたどり着きました。自分が撮りためてきた数知れない写真の中から、見る人にインパクトとメッセージを与えられるようにとギャラリーの方が約100点を選び、補正してプリントし、そして趣向を凝らした配置をして下さってできあがった空間。見慣れているはずの風景が違って見え、とても新鮮に感じました。子供たちにとっても、自分たちの写真が飾られているのは嬉しかったようです。訪ねてくるお客さんにいろいろと解説をしていました。お米のお客様や友人・知人の皆さんに来ていただき、とても楽しい2日間でした。動きの激しい息子たちがギャラリー内に置いてある陶器や他の作品を壊さないかと冷や冷やしっぱなしでしたが…。写真展は21日まで開催されていますので、関東にお住まいの方やたまたま東京に行かれる方はぜひ覗いて下さいね。

話が少し前後しますが、10月のはじめに福島からお客様がいらっしゃいました。ご自身も車椅子での生活をされていますが、身体障害者の方の生活自立支援をされているとのこと。二転三転している「福島の子供たちをO2ファームにご招待するプロジェクト」ですが、私たちが「障害をお持ちのお子さん方をご招待したい」という相談を持ちかけたところ、まずは紹介する前にご自身の目でどんなところか（受け入れ可能かどうかも含めて）確かめに行きたい、ということで遠路はるばるいらしてくださいました。せっかく来たからには、福島の現状も聞いていただきたいというお申し出を受け、急遽公民館をかりてお話を開きました。生活をとるか、健康をとるかの二者択一を突きつけられている福島。子供のことが心配でも移住は簡単にできるものではありません。残ることを選んだからには、放射線のことではできれば考えたくない、安全と信じたいという心理から、放射能のことは話題に上げることさえ避けられている現実が辛い、というお話でした。私たちに何ができるかを引き続き考えていこうと思います。



スポーツの秋、芸術の秋、そして食欲の秋。皆さまにとっても素敵な秋でありますように！

